

## 第26回青森県いじめ防止対策審議会 概要

- 1 日 時 令和6年2月2日（金）15：00～16：30
- 2 場 所 青森県庁南棟5階 教育委員会室
- 3 出席者

### 【審議会委員】

竹 中 孝 委員  
齊 藤 まなぶ 委員  
内 海 隆 委員  
関 谷 道 夫 委員  
鳴 海 春 輝 委員  
加 川 香寿美 委員

### 【県教育委員会】

嵯峨学校教育課長、ほか学校教育課職員（5名）

## 4 会議概要

### （1）令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等の状況について

文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」及び本県の調査により、令和4年度の児童生徒のいじめの状況等について、学校教育課から報告する。

#### 【主な意見】

- 本県でいじめ認知件数が増加している現状を把握・分析し、本県の対策に生かすことが重要である。
- いじめアンケートがどのくらいいじめ防止に役立っているのか、あるいはアンケートによっていじめ認知件数をどのくらい把握できたか等、アンケートの効果を検証する必要がある。
- いじめを発端とした不登校児童生徒がどれくらいいるのか、把握する必要がある。

### （2）令和5年度のいじめ防止等の取組について

令和5年度の「安心できる学校づくり研修会」及び「青森県いじめ問題対策連絡協議会」について、学校教育課から報告する。

#### 【主な意見】

- 安心できる学校づくり研修会では良い研修や講演をやっているので学校教育関係者だけでなく、多くの方々に声がけすることが大事だ。
- 本県でも他県を参考にしながら、学校や地域で自己肯定感を持たせること、他者の存在を認めるという教育を是非進めていくことが重要である。
- 最近、学校と親の対立が非常に多くなっていると実感しており、保護者対応の仕方や対人的なトラブル解決をテーマにした研修会を行う必要がある。
- いじめの定義が児童生徒間とあるが、最近は教師からの被害を訴える生徒の相談が増えてきている。

- いじめアンケートについて、誰が見て、どのように処理され、どのような対応をしてくれるのか明確に見えなくて、信用できないので、安心して自分の本心を書けないので、きちんと明記する必要がある。
- 教員と話したとき、1クラス40人ではなく、もう少し少人数のクラスにしてほしいという意見を聞いたことがある。
- 学校の組織体制のあり方について、人間教育は手間暇をかけないといけないものであるので、学校側はそのことを子供と保護者に伝えないと徐々に齟齬が出てくる可能性がある。